

## 低カドミウム米「あきたこまち R」はどう報じられたか How was the low cadmium rice "Akita Komachi R" reported?

ジャーナリスト  
小島正美  
(KOJIMA Masami)

日本人にとって、コメに含まれるカドミウムのリスクは高い。その意味でカドミウムをほとんど含まない「あきたこまち R」は日本人のカドミウムリスクを下げる画期的な新品種である。にもかかわらず、一部の国会・県議会議員や環境団体から反対の運動が起きている。では、この問題に対して、どんな報道があったのか、時系列的に主なニュースを並べてみた。左から日時、媒体、見出し（内容）、筆者、記事内容が「肯定的」「批判的」「中立」かに分けてみた。

23年 6月 29日	ウェッジオンライン「すごいコメ」(松永和紀氏)	肯定的
23年 11月 22日	秋田放送「あきたこまち R とは」	肯定的
23年 11月 27日	NEWS ポストセブン「画期的なコメの新品種」(清水典之氏)	肯定的
23年 12月 25日	NHK「危険視する根拠のない情報拡散県注意呼びかけ」	肯定的
23年 12月 27日	産経新聞「農家を中傷する誹謗中傷」	肯定的
23年 12月 28日	日本ファクトチェックセンター「危険は誤り」	肯定的
24年 4月 25日	秋田魁「こまち R 計画見直しを」(主に反対意見を紹介)	中立的
24年 4月 25日	河北新報「従来種 選択肢残して」(主に反対意見を紹介)	中立的
24年 5月 9日	毎日新聞「県方針に戸惑いの声 風評懸念」(共同通信記事)	やや批判的

これまでの報道を見ると、反対運動に強く共感する報道は「週刊金曜日」のような一部週刊誌を除き、ほぼ見られない。時系列的に見ると、普段は食品添加物のリスクを過剰に煽る「NEWS ポストセブン」(小学館のネットニュース)が反対する国会議員を名指しで批判したことは異例のことだ。この種の扇動的なメディアでさえも、「あきたこまち R」を高く評価し、反対運動に批判的な目を向けた点は、後続するメディア報道に大きな影響を与えたのではと思われます。

NHKが23年12月の早い段階で「根拠のない情報が拡散しているので注意してください」といった趣旨のニュースを流した意義も大きい。NHKは県の方針に理解を示す立場に立って、反対運動に合理的根拠がないことを積極的に報じた。さらにNHKは24年3月にも「県が情報発信を強化している」と2度目のニュースを肯定的に報じた。メディアの世界ではNHKが先導的な役割を果たすことがあるが、今回の例はそれに相当すると考えられる。

さらにネットニュースの真偽をチェックする非営利団体「日本ファクトチェックセンター」が23年12月に「放射線育種米が危険は誤り」とする結果を公表した効果も大きい。ファクトチェック活動はよほどの自信や確信がないと「誤り」だと断じることは難しいが、今回は市民団体の主張を明確に「誤り」と指摘した。同センターが科学的なリスクにかかわるテーマを組上にのせるのは珍しいが、そういう微妙なテーマに対して、あえて挑んで「誤り」だと伝えた影響は大きいと考えられる。

秋田県や宮城県の地元紙は会見時の反対派の主張をそのまま記事にしたが、県の方針に批判的というほどでもなく、中立的な姿勢に見える。ただ、県の主張を併記しなかったところを見ると、やや反対派に寄り沿った記事にも見える。大手新聞では毎日新聞秋田版(5月9日付・記事は共同通信社の配信記事)で「県方針に戸惑いの声」と反対派に寄り沿った記事が見られた。これを見る限り、共同通信の記者はこのテーマに批判的なことが見て取れる。この毎日新聞を除けば、肯定的な報道が先行したことで結果的に批判的な報道が少なくなったことが読み取れるのではないかな。

キーワード:カドミウムリスク, ファクトチェック, 風評懸念